

白光色

びやくしきびやっこう 第20号

Diversity × University

多文化共生キャンパス





HIV/AIDSへの理解と支援のシンボルであるレッド・リボン
(『HIV/AIDSについて考えたことがありますか』 P15 参考資料)

人権学習誌『白色白光』第20号

Diversity X University

多文化共生キャンパス

〈座談会〉

「多文化共生」キャンパス
をめざして

節和実里 岩本雄真
飯川椎奈 長谷川ベロニカ …… 2
カルロスマリア・レイナルース

アフリカのアルビノ・キリングと現代日本

落合雄彦 …… 11

HIV/AIDSについて考えたことがありますか

吉本圭佑 …… 15

人権を大切にすることは心を育てること

加藤博史 …… 20

龍谷ヒューマンライブラリー

和田萌実 …… 22

「性のあり方の多様性に関する基本指針」の策定について

入澤 崇 …… 25

人権に関する基本方針

…………… 26

編集を終えて

加藤博史 …… 28

座談会

節和 実里 (せつわ・みのり)

国際学部国際文化学科3年生

岩本 雄真 (いわもと・ゆうま)

国際学部国際文化学科3年生

「多文化共生」キャンパス
をめざして

飯川 椎奈 (いいかわ・しいな)

国際文化学部16年卒

長谷川 ベロニカ (はせがわ・べろにか)

国際学部国際文化学科3年生

カルロス マリア・レイナルース

国際学部国際文化学科教授



▶ 右から岩本さん、節和さん、カルロスさん、長谷川さん、飯川さん

カルロス 座談会に入る前に、自己紹介をお願いします。まずは先輩の飯川さんから。

飯川 飯川椎奈です。私は2年前に、国際文化学部を卒業し、今は父の会社で事務員として働き、夜は塾の講師もしています。フィリピンの母と、日本人の父のハーフです。

岩本 国際学部3回生の岩本雄真で、今日、ここにいらつしやるカルロス先生のゼミに所属しています。父が韓国人で母が日本人のハーフです。よろしく願います。

節和 国際学部3回生の節和実里です。中国人の母と、日本人の父のもとに生まれたハーフです。

長谷川 国際学部3回生の長谷川ベロニカです。父がアメリカ人、母が日本人のハーフです。

カルロス この座談会にいるみなさんは、私のことをよく知っていると思いますが、国際学部国際文化学科の教授をしています。専門は人の国際移動で、とくに外国人介護・看護労働者の研究をしています。私はフィリピン出身で、日本に住んでもう30年近くとなりました。

ところで、龍谷大学で上映された「H.A.F.U」という映画を観ましたね。ハーフの女性監督が、日本のハーフの人たちの姿を追ったドキュメントですが、みなさんのご家庭では、どんな生活をされていますか。

家庭での異文化体験

長谷川 私の父は普段、家では英語を話していますが、日本語も話せます。なので、会話の中に英語と日本語の両方が混ざります。

カルロス ということは、お父さんと話すときは英語ですか。

長谷川 その場合もありますし、父が英語を話して、私が日本語で返したりなど、いろいろです。

カルロス まさに多文化共生ですね。そんな中で、お父さんとお母さんの文化がやっぱり違うなと感じたことはありませんか。

長谷川 たとえば料理ですかね。わが家では和食も洋食も食べていますが、料理は母が作ることが多いです。父が作る料理は独特なものが多い気がします。

節和 わが家の食は、たしかに中国風かも知れませんが、いわゆる「和食」と呼ばれるものは食卓にのぼりません。だから、お正月の「おせち」というものは食べたことがありません。

カルロス では、お正月に何を？
節和 貝などを買ってきて、お鍋にしたりとか。

カルロス 旧正月のときは、新年を祝いますか。

節和 ええ、お年玉をもらったりします。
カルロス いいね、お正月が2回もある(笑)。

岩本さんの家での言葉は？

岩本 完全に日本語です。兄と妹の3人兄弟姉妹ですが、すべて日本語で話します。

カルロス 韓国語は、まったくだめですか。
岩本 まったくではなく、ちよつとはしゃべることができません。

カルロス いつ、誰に習ったのですか。

岩本 とくに韓国語を学んだことはなく、僕が暮らす大阪市の生野区はコリアンタウンの町で、自然におぼえました。だから、韓国語で自己紹介くらいはできます。

カルロス だったらお父さんの国の文化を知ろうと、観光に訪れるとかは？

岩本 小学校とか中学校の授業の一環として、韓国の文化や歴史を体験したり、高校のとき何度か訪れたので、少しは知っています。大学に入ってもっと深く知ろうとは思わなかった。

カルロス 飯川さんのお母さんは私と同じフィリピン出身ですね。中国と日本の文化は比較的近いものがありますが、フィリピンと日本の文化は違うところが多いように思います。飯川さんはどんな感じですか。

飯川 そうですね、食べているときがいちばん異文化を感じます。お母さんは手で食べて、私はお箸でとか。家族でケンタッキーフライ

節和実里さん



ドチキンを食べるとき、フィリピンスタイルでは、ご飯と一緒に食べます。日本はフライドチキンだけで、ご飯と一緒に食べる人はいない。だから、これがフィリピンスタイルだと、父は言います（笑）。

カルロス たしかにそうですね。

飯川 でも、フィリピン人の母は、それが正しい持ち方かどうか知りませんが、お箸を上手に使っています。

カルロス 飯川さんが言うように、食事のときがいちばん異文化を体験できる。家庭での異文化理解というのでしょうか。

節和 今話を聞いて思ったのは、私がアルバイトをしたときのことです。中国ってギョ

ウザとご飯と一緒に食べないのだと。カルロス 日本と一緒に食べる。

節和 そうですね。まだ日本でギョウザと言えば焼きギョウザですが、中国では水ギョウザが一般的だと思います。

カルロス 家では焼きギョウザを食べないの。節和 食べないです。水ギョウザのみで、このほうがおいしいと思いますし、ご飯は出てこない。ところが定食屋さんなんかで注文すると焼きギョウザで、しかもご飯がついてくる、何でと思ってしまう（笑）。焼きギョウザが日本では主流だということをもも知っていて、たまに作ってはくれますが、あくまで基本は水ギョウザです。

カルロス 家庭でのしつけや日本人のマナーについてはどうですか。

岩本 何ひとつ注意されたことはありません。子どもの自由にまかせられています。

カルロス 日本でのマナーを守るといえるのは、みなさんが日本で生きていくうえで、とても重要なポイントになると私は思います。それと、やはり日本の文化ですね。自宅から外に出て学校などに行くと、自分は他の子と違うのだということを意識したり、逆に違うことをアピールしたことはありませんか。ハーフとしての自分の存在感とかを。

たとえば小学校に通ったとき、理解できない風習があったりとか、自分が外国人とのハ

ーフだからとか、そういうことを意識したことは。

節和 今、大学生や高校生のハーフのタレントが増えてきて、ハーフと見られることはうれしいと思います。ただ小学生のときは、いじめとまでは言わないのですが、この子は中国人とのハーフなのよと。

カルロス あなたがハーフだということが、なぜわかったの。

節和 なぜなのでしょう、ちょっと思い出せませんが、自分から言ったおぼえはまったくありません。今だったら、中国人とのハーフですと答えていたかも知れませんが。

カルロス 飯川さん、あなたのお母さんはフィリピン人でしょうと言われたことはありますか。

飯川 小学生のとき、たしかにフィリピン人なのかと聞かれたように思いますが、その質問のあと、その児童は「じゃ、しいなちゃん、何人なの？」と。そのとき私はハーフではあるけれど、国籍がどちらかまで知らなくて、たぶん「日本人」と言ったと思いますが、今思い返すと自分を「日本人」や「フィリピン人」と、どちらか片方に決めつけてしまっているのだからかという戸惑いの中で、曖昧に「日本人」と答えたのです。

そのとき担任の先生が、「お父さんお母さんが外国人の子はたくさんいるよ。何も珍し

いことではない。ご両親はお互いに好きで国際結婚をしたのだから、それはとても素晴らしいことです」とおっしゃってください。本当にうれしかったことをおぼえています。カルロス 小學生にとっては珍しい友達だったので、日本人とどう違うのかと、興味をもったのでしようね。

飯川 そう思います。

なぜ、龍谷大学国際学部へ？

カルロス ところでみなさんなぜ、龍谷大学の国際学部に入って勉強しようと思いましたが。自分がハーフだから「国際」ということ



カルロス教授

ですか。

節和 私はこの前、先生の課題で書いたのですが、なぜ国際学部にと同じハーフの学生が多いのかという純粋な疑問から調べて、インタビューのときに、対象者になぜ国際学部を選んだのですかと質問したら、イラン人と日本人とのハーフの学生が、高校も国際科で、お父さんがイラン人だから異文化に興味を持っているので、国際学部を選んだと言いました。もう一人、台湾と日本のハーフの人は、自分がハーフということとは関係なく、英語を勉強したいからきたと。私も高校生のとき国際文化だから、日本文化も学べると思って、国際学部を選びました。

カルロス なるほどね。

節和 考えてみたら、小さいときから英語を習っていたとか、海外に行ったからという理由で、「国際」というものを意識するようになったのかと思います。

長谷川 私は海外の文化をもっと知りたいということと、もう少し英語を勉強したいという理由ですね。国際文化を学べる大学に行けば、もっと多様な人と関わるができるかなと思いました。それと、家庭での環境が国際的であったのも、理由の一つです。

カルロス ということは、自分の文化も。

長谷川 自分の国の文化や世界の文化を知り、その国の人々と関わりたいという気持ち

がありました。ただ大学では世界と言ってもまんべんなくではなく、授業によって地域が特定されるので、ひとつの地域に絞ってじっくりと勉強できるのが、大学ならではの思いました。

カルロス どの地域。

長谷川 最初は欧米について学びたいと思っていましたが、大学の授業を受けていく中で、アジアの文化にも興味をもつようになりました。

カルロス 飯川さんは2年前に卒業していますが、6年前、なぜ当時の国際文化学部へ。飯川 やっぱり母が外国人ということもあり、グローバルな海外のことに興味があったので、いろんな学部がある中で、自分にとって身近に感じられたからです。

岩本 僕は高校のとき、海外で働きたいという夢があり、国際学部へ。そして、カルロス先生の授業の中で、朴さん^{パク}というかたがゲストとしてこられ、在日コリアンの歴史のお話などを聞いて、最近急に興味を持つようになりました。

カルロス 私の「パンパシフィックの移民」の授業で、ゲストスピーカーとして「国境」と「国籍」の問題や、在外コリアンコミュニティの現状について朴仲次さん（米国ニューヨーク州立大学ビンガムトン校社会学研究科）にお話しいただいたときですね。それで、ど



んなことがわかりましたか。

岩本 在日コリアンに対する差別などがテーマでしたが、僕らの世代は在日3世、4世になつていたので、日本の文化にとけ込んでいるため、そんなに違和感がない。1世、2世とか日本にきたばかりの人なら、やはり差別が残つていて、今になつても国籍の問題だったり、高齢のおばあさんなんかは、年金が受給できない。

今の、日本はグローバル化を目指しているようですが、根本的な日本のあり方、性格から変えていかないとだめですね。口先だけでグローバル化と言っているだけでは、まったく意味がない。

龍大は過ごしやすい？

カルロス みなさんの入学の動機はよくわかりましたが、実際にこの龍谷大学に入つてみて、どう思いましたか。いろいろと勉強することができて、居心地がいい所ですか。また、ハーフにとって龍谷大学は過ごしやすい所でしょうか。

節和 自分はハーフという意識ではなく、一学生だと思つているので、とくにハーフが過ごしやすいという感じはない。普通に大学生活が楽しいし、友達もいるので過ごしやすいと思つています。だから、ハーフだから楽しいし、過ごしやすいということはありませんね。

カルロス なるほど。長谷川さんは外見上は外国人っぽいので、どうですか。

長谷川 私は3回生から龍谷大学に入ったこともあり、「留学生だと思つていた」と言われたり、「日本人には見えない」と言われました。あるとき、私が友達と日本語で話していたら、それを見ていたもう一人の友達が、「なんか吹き替えて話しているみたいだ」とも言われたり(笑)。

カルロス ということは、外国人だと見られている。

長谷川 私は自身のことを周りと同じ日本人

だと思つていたので、外国人だと思われていることに驚きと複雑さを感じます。それと、目立ちたくなくても目立つてしまいます。しかし、ハーフだからこそ顔と名前をすぐおぼえてもらいやすいです。

カルロス ひとつ言えるのは、大学には留学生が大ぜいいるので、たとえ外国人に見えても、そんなに特別扱いしない面があると思うのですが。

飯川 あなたは目が外国人っぽい、目がハーフねと言われたことがあります。目だけ(笑)。

カルロス 岩本さんは、教えてもらわないと韓国人とのハーフとはわからなかったのだけど、大学ではどうですか。

岩本 ええ。でも、友達になつた人には自然な会話の中で、「俺、ハーフやねん」となります。

カルロス みんな驚く？

岩本 驚きはしませんね。

カルロス 大学に入つて、韓国の文化についてたずねられたりしませんか。

岩本 聞かれたりすることは、もちろんあります。

カルロス 自分はハーフで、日本とは違った文化を持つている。自分の文化も存在しているという意識はありますか。

飯川 見た目は日本人だけど、その根底には

一般の日本人と一緒にしないで！と思うことがあります。気持ちは日本人だけど、母は外国人、ハーフだということを押し出します。カルロス では、どんなときハーフを押し出しますか。

飯川 普通に友達と会うとき、自然にハーフだと言ったほうが印象に残るからです。

カルロス アメリカと日本のハーフ、フィリピンと日本のハーフは、珍しいのかな。私は日本の文化だけじゃなくて、もうひとつの国の文化を持っていますよと、どんな場面でアピールしますか。

節和 アピールしたほうが自然なときは、私は中国と日本のハーフですと言いますが、日



飯川椎奈さん

常生活を送っているときは、自分から言い出すことはありません。人からハーフですかと聞かれたら、そうですね、どここの国とのハーフですと答えて話のネタにします。

飯川 今の自分があるのは、ハーフだったからだと思えるので、一般の日本人が悩んでこなかった部分で、けっこう悩んできたので、それが自分のためになっっているし、自分を創ってくれていると考えています。

節和 私もそう思います。

就職して仕事は海外、日本？

カルロス 就職するとき、中国と日本のハーフは、ひとつの強みになるのでは。

節和 たしかに強みとして使いたいと思いますが、ただ私は中国語を話せないの（笑）。

長谷川 私はできるだけ英語が使える仕事にしたいなと思います。たとえば、国際的な仕事の分野だとか、外国に駐在して働くことを考えています。

カルロス アメリカで働きたい。

長谷川 そうですね。アメリカや他の国など、できれば海外で働きたいです。

カルロス みなさんはどう。

飯川 日本に住み慣れてしまっているのだから、

カルロス 節和さんは、年に何回くらい中国

に帰りますか。

節和 それほど帰りませんね。私はこのあいだ留学したとき、久しぶりに中国に行きました。そこで思ったのは、ひと昔前は、中国って黄砂とかで汚いというイメージがあったのですが、この前に帰ったときは町がきれいになっていて、みんなが思っているほど悪い所じゃないと、再確認しました。

ただ、日本にいと誰とも意思疎通をとどこおりにできるし、住むのは日本がいいですが、チャンスがあつて何年か仕事をすることになれば、中国に行こうかなと思っっています。ただし、自分の語学の習得具合によります。

カルロス 中国語は、どれくらい。

節和 ほんとにまだ、いちから勉強しているところです。

岩本 僕は最近、韓国に行っていないのですが、高校の頃は1年に1回とか行っていました。

カルロス 韓国に行くと、自分は外国人だと感じる？ もしくは親近感を感じますか。

岩本 韓国には日本人観光客や住んでいる人も多くて、日本語が通じる所も多いし、日本語の看板もよく見かけるので、日本と変わらないように感じます。

カルロス ということは、日本人の感覚で行っているの。

岩本 ええ、日本人の感覚で韓国に行つていますが、とくに違和感はありません。

カルロス 住みたいと思う。

岩本 うーん、2割ぐらいかな(笑)。でも就職して、もし韓国で働くということになったら住みます。

カルロス 住む住まないは別にして、お母さんやお父さんの国の文化を知るには、何がいちばんいいと思いますか。

節和 語学じゃないですか。言葉ができれば意思疎通が可能ですし、文化も知ることができる。



岩本雄真さん

「多文化共生」って、いったい何？

カルロス さきほどの学校での居心地という話に戻るのですが、たとえばこれからみなさんのようなハーフの学生たち、異文化を持っている外国の人たちが龍谷大学に入ってきたら、どういうことを大学がすれば、もっと居心地のいい場所になるのでしょうか。

たとえば、この大学で多文化共生を進めようとすれば、どうすればいいか。みなさんの視点から、どういう取り組みをすればいいかを、教えてくれませんか。

岩本 この場じゃないですか。こういう場でみんなが話し合うと、いろんな人が集まってくる。こういう座談会や話し合える場を設けることで、人脈が広がって行って、みんながつながっていく。

カルロス ええ、つながっていく場ですね。節和 このような話し合う場は、大学にはありません。

長谷川 龍谷大学には、留学生と一緒に合同授業ってないですよ。私が前にいた学校では、留学生と一緒に英語を使った授業を受けていました。そこで互いに話し合ったりして、その留学生のバックグラウンドを知ることができました。そのような留学生と関わり合う授業があれば、相手の国の文化も知ることが

でき、さらにつながっていけると思います。

カルロス そうです、私も瀬田キャンパスにいたときは、そのような授業をやりました。たしかにお互いの文化を知るには、いいことですね。

飯川 今日の座談会のように、ハーフの人たちが話し合う場があれば、みんなが集まってくる。そして自分の国の文化のことを話したり、そういう交流ができます。

カルロス 学生たちが、自分たちで創る、そのようなゼミをやりましょうか。やっぱり国際学部が中心となって進めるのがいいでしょうね。大学も悩んでいて、多文化共生の理解をどう深めていくか、なかなかむづかしいことです。

そこで、質問しますが、「多文化共生」って、みなさんはどういう印象ですか。みなさんのようなハーフの視点の経験から、この多文化共生というものは、どういうことを意味しているのだと思いますか、ちょっと、むずかしいかな。

節和 あの人はハーフだ、外国人だと差別しないことが、多文化共生の社会だと思えます。そういう差別をしないで受け入れ、ハーフだとか外国にルーツがあることをオープンにし、相手が気を使うことなく「ああ、そんな人や」「じゃ、私もそうするね」と、両方が認めあう。

岩本 カナダやアメリカには、いろんな人種や宗教が混在し、共存している。それは長い歴史の中で培われてきたもので、日本もこれからそうなるうと思ってると思うのですが、多文化共生社会だと言えるようになるのは、長い歴史が必要でしょう。今からやって、これから何十年とかかります。

カルロス ええ、だからこそ今すぐ始めないと。

飯川 対立するのは、お互いの文化をよく理解していないからです。もし対立することがあっても、そこから考え直す基点となればと思います。

カルロス みなさんのようなハーフの人は、多文化の交流をいちばん仲介できるのだと思います。ふたつの文化が対立しているときに、どう理解を進めるか。多文化共生のコーディネートとしての存在が、ハーフとしての役割だと思えます。

長谷川 自分と違う人がいても、すべて受け入れていく。お互いに距離をおかないで、興味を持って自分と違う人と接していくのが、いちばん良いことかな。

多文化共生の社会を作っていくには

カルロス そもそも「ハーフ」という呼び方ですが、これについてみなさんはどう思いま

すか。

岩本 違和感はないですね。「ハーフ」とか「ダブル」とか「ミックス」と表現されますが。

飯川 ハーフとダブルの違いですが、ダブルだとふたつの文化があると気付いてもらえます。ただ私は、ハーフであることをプラスに受けとめています。ハーフという言葉を使われても、違和感がありませんし、嫌な印象もありません。ハーフと言うと、半分しかないということ日本人は意識して使っていないと思います。

節和 私は恵まれた環境の中で育ちましたので、差別されたり悲しい経験をしていません。だから言えるのかもしれませんが、自分自身が今の自分でよかったと。ハーフでもダブルでも、言い方は関係ありません。自分にハーフとしての誇りがあり、ハーフであることを嬉しく思うからです。

岩本 ええ、このままでいい。

飯川 私も今まで育ってきた環境がポジティブなので、もう一度ハーフとして生まれてきていいと思っています。

長谷川 私も今のままでハーフでいいと思います。たぶん生まれ変わっても、できることなら今よりもたくさんさんの国や、さまざまな人種の人々とながれる社会で生まれ育ちたいです。

カルロス この座談会では、家庭での話からはじまって、大学、社会と進みました。そこで、最後の質問になります。さきほど少し話が出たように、もう少しお聞きなスケールで、日本が多文化共生の社会を実現していくためには、たとえば日本政府はどういうことをすればいいのでしょうか。

長谷川 私はやっぱり、移民をもっと受け入れることが大切だと思います。そうすれば、外国人に対する違和感が軽減されるし、次世代の子どもたちも多文化社会の中で共存し合うことを当たり前のように感じると思います。

節和 日本人が外国人を見たときに、あの人は外国人だと差別しなくなるというのが、いちばん早道かな。京都で外国人に道をたずねられたら、私は英語がしゃべれないので拒否せず、ジェスチャーでも何でもいから手助けをする。また、教育の中で世界にはいろんな人がいて、いろんな文化があるのだと教えることも重要です。

岩本 ええ、小学校の低学年のときから、外国人理解を進めることです。小学生にとつては、人種や宗教の違いを理解することはむづかしいと思うのですが、偏見を持たないように映像なども使って外国の知識を高めることでしょうか。幼い頃からの、外国人に対する理解ですね。

飯川 私も教育が大事だと思うのですが、多



文化共生を進めるために、具体的に何をやるかと言うと、むずかしいですね。いろいろな文化に触れる授業を、ただ教室の中だけでなく、外に出て体験したり関わったり、これ

は学校教育だけじゃなく、家庭でも必要です。私の母が結婚したときに比べたら、日本も少しは多文化共生の社会に近づいてはいると思いますが、まだまだ改善することがもつとあると思います。節和さんがおっしゃったように「外国人」だとか「ハーフ」だと差別しなくなつたとき、初めて多文化共生になると思います。私たちはたしかにハーフですが、多文化を生きるという感覚を当たり前に持つて生活しているように、日本社会にとつていろんな国籍、文化、ルーツを持つ人間がいて当たり前前に思える人が増える、それが多文化共生なのかと思います。

カルロス みなさんがおっしゃるように、日本の多文化共生は、まだまだ課題があります。しかし、みなさんがなぜ今日、この座談会にきてくださったのかと言うと、みなさんがハーフとして、少

なくとも龍谷大学の多文化共生を何とか進めていきたいという思いがあるからだと思います。長い時間、お話をありがとうございます。

〈座談会を終えて——カルロス〉

ハーフと呼ばれる人々は、私に知り得ない苦労とか文化摩擦の問題があるだろうとも、私は考えていました。しかし、この座談会を通じて、多くのことを克服し、またさらに前進しようとする人たちの持つ強さと明るさの面を、私は教えていただいた心持ちです。彼女彼らはこの国際学部という多くの外国人が集まる場所で学んだことも、大きな支えと進歩の契機の一つになったのだと改めて感じ、うれしい気持ちを抱きました。

今後二つの国の文化のより高い調和の方向へと発展しようとしている彼女彼らを、見守らせてもらうことの喜びを感じています。

アフリカのアルビノ・キリンダ と現代日本

法学部教授 落合雄彦

「色」は「光」るとはかぎらない

本誌のタイトル『白色白光』^{びやくしやくくわう}は、『仏説阿弥陀経』という書物に由来します。本誌の巻末言によれば、同経には、「赤色赤光 白色白光」（赤色の花は赤く輝いて咲き、白色の花は真っ白に輝いて咲く）というくだりがあるそうです。そしてそこから、私たち一人一人には「自分だけにしか出せない美しい輝き」があるはずであり、そうした各人の輝きを大切にしつつ互いに色とりどりに咲き合えるような社会を実現したいという願いを込めて、本誌に「白色白光」という命名がなされたのだそうです。しかし、です。「色」というのは実に厄介です。たしかに花々は色彩豊かに美しく光り輝くかもしれませんが、「色」は、ときに差別や対立を助長するためにも使われます。たとえば、二〇一七年の大晦日に放送され

たテレビ番組のなかで、ある人気タレントがアメリカの黒人俳優エディー・マーフィーに扮するために顔に黒いメイクをして登場しました。これは、アメリカでは「ブラックフェイス」（黒塗りメイク）と呼ばれており、一般に人種差別的なものと理解されているそうです。放送後、同番組を批判する声が日本在住のアフリカ系アメリカ人などから挙がり、やがて海外メディアも一連の騒動を報道しました。しかしその一方、国内のツイッターなどでは、「めっちゃ笑える」「黒人ではなくエディーのモノマネをしただけでは?」「日本にはアメリカのような黒人蔑視の歴史はないのだから、ブラックフェイスはまったく人種差別的ではない」「日本人には黒人へのあこがれやリスベクトさえあり、かつては靴墨で顔を黒く塗った人気コーラスグループまでいた」といった、番組側を擁護する書き込みも

数多くみられました。

ですから、「色」というのは本当に厄介なしろもの、なのです。それはときに、たとえば「色とりどり」のように多様性をもつ豊かさの積極的な肯定のためにも使われますが、「色分け」のように人をグループ分けし、差別したりグループ間の優劣を競ったりするためにもまた使われてしまうのです。「色」、特に毛髪や皮膚の「色」は、おそらく人類史上もっとも古くからある、そしていまもお広範にみられる集団間差別のための強固な「標」^{しるし}です。そして、アフリカ研究者である私が拙稿でお伝えしたいのは、「光」るものとしてではなく、あくまでも差別の「標」としての「色」をめぐるアフリカのお話です。もう少しだけ具体的にいえば、「白色白光」ではなくそのいわば逆、つまり、一部のアフ



リカ諸国にみられる深刻な「白色差別」のお話なのです。

アルビノを知っていますか？

「白色」のことをラテン語で「アルブス」(albus)といます。そして、それを語源とする病気が「アルビニズム」(albinism)であり、その患者さんが「アルビノ」(albino)です。ご自身もアルビノである矢吹康夫さんの著作『私がアルビノについて調べ考えて書いた本——当事者からはじまる社会学』(生活書院、二〇一七年)によれば、アルビニズムとは、皮膚科において「白皮症」と呼ばれている病気で、先天的にメラニン色素の生成が低下、または完全に消失する遺伝性疾患です。それは、症状が眼にのみ限定される「眼白皮症」と、眼だけではなく全身の皮膚や毛髪にも症状がみられる「眼皮膚白皮症」の二種類に大別されます。

アルビノの方々にほぼ共通してみられるのが、メラニン色素の低下・欠乏に起因する眼症状です。具体的には、①眼の黄斑部の形成不全による低視力、②虹彩や眼底が低色素であるがゆえに感じられる過度なまぶしさ(羞明)、そして、③眼球が水平方向に小刻みに揺れてしまう眼振、といった眼症状がアルビノの方々には広くみられます。これらの眼症状のゆえに、多くのアルビノの方々は弱視の

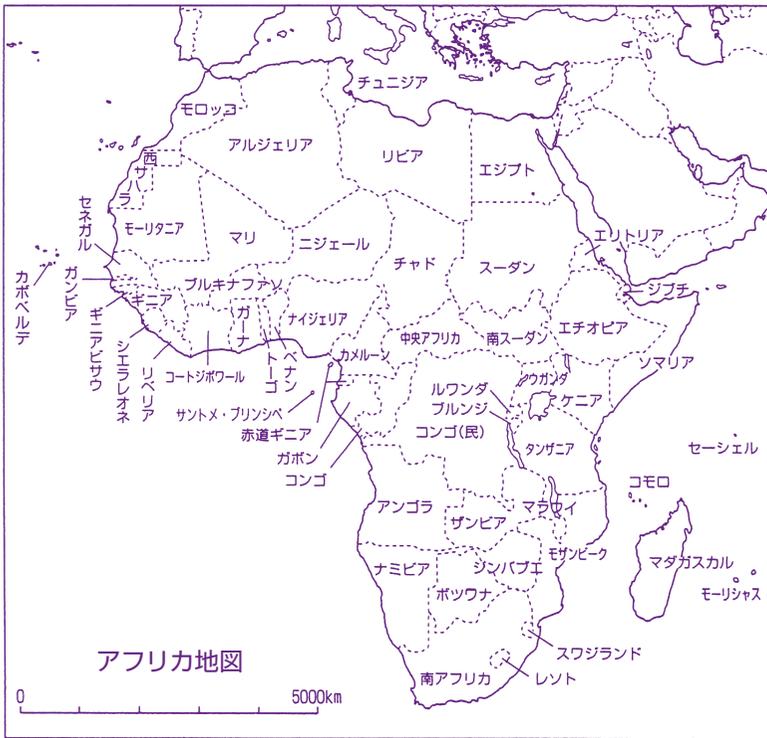
傾向を示します。また、皮膚症状が出ることもあります。たとえば、色素が薄いゆえに、毛髪やまゆ毛などの体毛が白色や金色になります。さらに、皮膚が白っぽくなり、日光などの紫外線を浴びると通常よりも日焼けしてしまいます。

とはいえ、多くのアルビノの方々は、そうした諸症状の治療のために定期的な通院をしているわけではありません。弱視ルーペや日焼け止めクリームなどを適宜用いつつ、ごく普通の生活を過ごしておられます。ただし、そこには、日本のアルビノの方々が直面する、アイデンティティや生きづらさをめぐる問題もまた潜んでいるのです。つまり、視覚障がいを除けば、アルビノの方々には生活上の障がいほとんどありません。したがって、障がい者という認識もほぼないそうです。それどころか、自分がアルビニズムという病気の患者であるということさえも、大人になるまでまったく知らなかった、というアルビノ当事者の方もおられます(石井更幸編『アルビノの話をしよう』解放出版社、二〇一七年)。にもかかわらず、多くのアルビノの方々は、金髪や白髪であったり、皮膚が白っぽかったりすると、その「ガイジン」のような外見性(見た目)のゆえに、幼少期から差別や偏見を経験します。障がい者でも非障がい者でもなく、その見た目のゆえに差別されるとい

う、アルビノ当事者をめぐる曖昧で、しかし抑圧的な社会的位置づけが、彼らのなかに「私は一体何者なのか」をめぐるアイデンティティの問題を引き起こしたり、生きづらさを感じさせたりするのです。

アフリカのアルビノ・キリング

そうしたアルビノの人びとが、過去十年程の間、世界でおそらくもっとも重大な人権侵害を経験してきたのがアフリカです。一部のアフリカ諸国では、アルビノ、特にその子どもを狙った襲撃、誘拐、傷害、殺人などの事件が多発してきました。一般に、そうしたアルビノに対する殺傷・襲撃事件(未遂を含む)のことを「アルビノ・キリング」(albinism killings)と総称します(仲尾友貴恵「暴力と結びつく身体的特徴、その社会問題化過程について——タンザニアのアルビノ・キリングを事例に」『京都社会学年報』第二四号、二〇一六年)。国際社会がそうしたアフリカのアルビノ・キリングに注目するようになったのは、二〇〇七年末頃のことです。同年一二月、当時BBC(英国放送協会)のタンザニア支局長であったヴィッキー・ヌテマさんというタンザニア女性ジャーナリストが、「アルビノ・キリング」に結びつけるタンザニアというタイトルの記事を書き、そのなかで、アルビノを狙った殺人や墓荒らしが同国北西部のヴィク



トリア湖周辺地域において連続して発生していることを報じました。そして、この記事を皮切りに、BBCをはじめとする国際メディアがタンザニアなどにおけるアルビノ・キリングの実態を次々と報道するようになり、国際的な関心がこの問題に寄せられるようになりました。

タンザニアをはじめとする一部のアフリカ

諸国では、毛髪や皮膚の色が生まれつき白いアルビノの肉体には不思議な霊力が宿ると信じられています。そして、呪術師のなかには、そうしたアルビノの身体部分を混ぜ込んだ特別な呪薬をつくり、それを数百ドルから数千ドルという高値で販売して一儲けしようとする者がいるのです。アルビノは、そうした主に呪術ビジネスのニーズを満たすために殺傷されたり、その墓が盗掘されたりして、手足、指、臓器、性器といった身体部分を切断されて奪われてしまうのです。

国際社会は、そうしたタンザニアなどにおけるアルビノ・キリングの実態と重大な人権侵害状況に驚愕し、それを強く非難するようになります。そして、二〇一三年、国連人権理事会総会において、「アルビノに対する襲撃と差別」と題された決議が採択され、国際社会がアフリカの各国政府や地域機関などと

ともに対アルビノ差別撤廃のために協力していくことが確認されました。この決議は、アルビノの人権をめぐる国際的な取り組みの必要性と重要性を初めて公式に確認したという点で重要な文書であり、それが採択された六月一三日は、二〇一五年より「国際アルビノズム啓発デー」とされています。

こうしたさまざまな機関や組織などの取り組みもあって、少なくともタンザニアにおけるアルビノ・キリングの発生件数は近年、激減しています。二〇〇九年、ピーター・アッシュュさんという、カナダ人のアルビノ当事者がタンザニアのアルビノ・キリングの実態に衝撃を受けて「アンダー・ザ・セーム・サン」(UTSS)というNGOを設立しているのですが、このNGOの調査によれば、タンザニアで最後のアルビノ殺人が確認されたのは二〇一五年二月のことだそうです。それは、一歳のアルビノの男の子が連れ去られ、のちに手足を切断された遺体で発見されたという大変痛ましい事件だったようですが、それ以来少なくとも本稿を執筆している時点(二〇一八年一月)までの間、タンザニアではアルビノ殺人は発生していません。前述した研究者の仲尾さんによれば、タンザニアにおけるアルビノ・キリングの発生件数のピークは、おそらく二〇〇八年から二〇〇九年にかけての時期であったそうです。その後、二〇一三

13

年から二〇一五年にかけて発生件数の一時的な増加がみられたものの、タンザニアのアルビノ・キリングは近年、総じて沈静化しつつあります。しかし、タンザニアにおいては、殺人事件こそ激減したものの、アルビノを狙った襲撃はいまなお散発的に発生しており、たとえば、二〇一七年一〇月には、七五歳のアルビノの男性が就寝中に何者かによって襲われ、左腕の肘から先の部分を切断の上で強奪されています。

こうしたアルビノ・キリングが起きているのは、しかし、けっしてタンザニアだけに留まりません。UTSSの調査によれば、二〇一八年一月九日までの時点で、少なくとも二八のアフリカ諸国において計五五二件（殺人二〇二件／殺人以外の襲撃三五〇件）のアルビノ・キリングに関する報告があるようです。そして、それを国別で見ると、国際社会がアルビノ・キリングに注目する契機となったタンザニアが一七八件（うち殺人七六件）と最も多いものの、コンゴ民主共和国で六七件（うち殺人一七件）、モザンビークで四四件（うち殺人一五件）、マラウイで四三件（うち殺人一四件）、ブルンジで三八件（うち殺人二一件）のアルビノ・キリングがそれぞれ報告されているのです（UTSSホームページ）。

私たち日本人から見ると、呪薬を作るためにアルビノを襲撃してその身体部分を切断・

強奪するというアフリカのアルビノ・キリングは、誠に残忍かつ猟奇的であり、異常あるいは文化的に異質なものにさえ映るかもしれません。「やっぱりアフリカは野蛮だ。アフリカでは、呪術や迷信がいまなおはびこっており、だからアルビノ・キリングのような蛮行が起きるのだ。それに引き換え、日本は近代的だ。日本では、呪術や迷信はほとんどないから、アルビノの方に対する暴力なんて起きるはずがない」、そんな誤解をしてしまう人がいたとしてもけっして不思議ではありません。しかし、実のところ現代日本でも、アルビノ・キリングに近い現象はすでに起きているのです。

現代日本のアルビノ萌え

前述した社会学者でアルビノ当事者でもある矢吹さんは、「アルビノ萌え」という、日本のオタク文化現象に注目しています。矢吹さんによると、人気テレビアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』の綾波レイという美少女キャラクターの登場を契機に、アルビノ萌えという現象が日本のオタク文化のなかに定着するようになったそうです。そして、アルビノ風の美少女キャラに萌えるオタクの人びとが、「同盟」と呼ばれる、いくつかの仲間同士の交流サイトを開設・運営しているそうです。

オタクの人びとは、傷つけられる痛みをみ

ずから知っているがゆえに他者を傷ついたりせず、一般的には社会のルールに反する暴力行為などもしないと考えられています。また、相手が生身の女性であれば大問題となるような発言や行為であっても、対象が美少女キャラであれば、なんの気兼ねもせずに性的に妄想し、萌えることができるわけであり、そこには、他者を傷つけているという現実も罪悪感もありません。このようにオタクによる美少女キャラ萌えは、あくまでもアニメのような創作や虚構の世界を主な舞台とした現象であり、その意味で、アルビノの美少女キャラに性的興奮を感じる日本のアルビノ萌えは、生身の残忍な暴力が伴うアフリカのアルビノ・キリングとはまったく異次元のものです。

しかし、たとえアフリカのアルビノ・キリングが「現実世界のもの」、日本のアルビノ萌えが「虚構世界のもの」だとしても、両者にはある種の共通性が見え隠れします。それは、顕在的か潜在的かはともかくも、両者に通底してみられる「一方的で非対称な暴力性」とも呼ぶべきものです。

私たちは、アフリカのアルビノ・キリングを、アフリカの残忍さや野蛮性の証左としてではなく、むしろ「白色白光」を実現するための現代日本への警鐘として捉えるべきではないでしょうか。

HIV/AIDSについて 考えたことがありますか

政策学部講師 吉本圭佑

HIV/AIDS

HIVと聞いて、どんなことを思い浮かべますか。怖い病気だけど、一部の人だけがなる病気で、自分とは関係ないと考えている人も多いのではないのでしょうか。しかし、セックスをする人であれば誰でもHIVに感染する可能性があります。自分は一生セックスをしないと決めているというのであれば話は別ですが、多くの人のとって、若いうちにHIVの予防法を知っておくことは大切なことです。

皆さんの多くは、風邪を引いたときに風邪薬を飲みますよね。でも、風邪薬には風邪自体を根本的に治す力はありません。風邪薬は咳や鼻水といった諸症状を緩和するだけで、風邪を治すのは人間の体にそもそも備わっている免疫力です。HIV（ヒト免疫不全ウィ

ルス：Human Immunodeficiency Virus）はこの免疫の仕組みを破壊するウイルスです。HIVに感染してそのまま長い間放置していると、徐々に免疫力が落ち、普段なら感染しない病原体に感染したり、自力で風邪を治すことも難しくなってしまう。その結果発症した病気が「エイズ指標疾患」と定められた症候群のいずれかに当てはまると、AIDSを発症したと診断されます。AIDSとは、後天的免疫不全症候群（Acquired Immune Deficiency Syndrome）のことです。カタカナの「エイズ」はしばしば差別的な文脈で使われてきたため、現在ではAIDSと表記するのが一般的になっています。

昔は治療法がなく、HIVに感染した人の多くはAIDSを発症し、死に至る恐ろしい病気だと考えられていました。いまだに有効なワクチンは開発されておらず、一度HIV

に感染すると、ウイルスを体から完全に除去する方法はありません。しかし、実際には、HIVに感染してからAIDSを発症するまでには長い時間がかかり、早い人で3年から5年、遅い人では10年以上も自覚症状が出ないことも珍しくありません。

また、医学が進歩した現在では、1日1、2錠の抗HIV薬を服用することで、ウイルスの増殖を抑えることができます。最新の抗HIV薬では、体内のHIVの数を血液検査で検出できる値未満にまで下げ、事実上他者に感染させるリスクがない状態を保つことも可能です。今では糖尿病などの慢性疾患と同じように、HIVに感染しても早期に治療を開始すれば、最期までAIDSを発症せずに、これまで通りの生活を送ることが可能なのです。

HIVの感染経路

HIVの感染を予防するためには、ウイルスの感染経路を知っておく必要があります。HIVは感染している人の血液、精液、膣分泌液に多く含まれています。したがって、HIVに感染している人の血液、精液、膣分泌液が粘膜（膣、口腔内、直腸）や傷口から大量に入り込むと、感染の可能性が生じます。具体的な行為としては、セックス（オーラルセックスやアナルセックスも含む）、輸血や医

療行為の中で起きる事故、注射針の共用、妊娠・出産時に母親から子どもに感染する母子感染（産科での適切な措置により、ほぼ完全に予防できます）が挙げられます。尿や唾液にもHIVは含まれてはいますが、非常に微量なので感染することはありません。またHIVは空気中や水中では生きられないので、インフルエンザのように咳やくしゃみで感染するということはありません。

コンドームについて知る

現在の日本におけるHIVの感染ルートはセックスによるものが約8割です。性教育でコンドームを使用することが大事だと習っているはずなのに、日本でのHIV/AIDS累計報告数は10年前に比べ2・4倍に増えているのです。総数としては諸外国と比べてまだ少ないものの、この増加はコンドームの使用が定着していないことを表しているといえます。

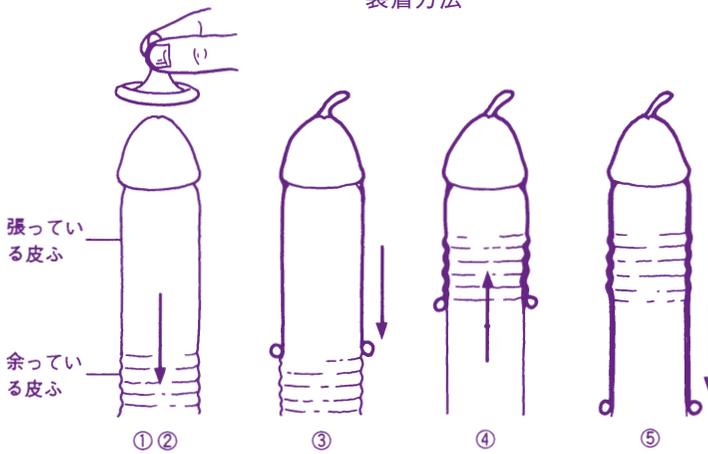
高校までの性教育では「コンドームをつけよう」というスローガンは習っていても、あまり踏み込んだことまで習わないことが多いようです。そのせいか、AV（アダルトビデオ）を性の教科書として参考にしてしまっている人もいます。日本のAVではモザイクがかかっているので、多くの場合コンドームを着用しているかどうかはつきりとは確認で

きません。また、膈外射精で終わることも多いため、膈外に射精すればコンドームを着用しなくても大丈夫と思っている人も少なくありません。しかし、膈外射精は適切な避妊の方法でないばかりか、HIVを含む性病の感染も防ぐことはできないのです。また、ピルを飲んでいればコンドームをつけなくても大丈夫という考えや、アナルセックスなら妊娠

しないからコンドームをつけなくても大丈夫という考えも誤りです。確かに妊娠の可能性は下がりますが、粘膜と粘膜が直に触れ合う以上、HIVを含む性病の感染の可能性はあります。あくまでもAVはファンタジーであると思ってください。

では、コンドームはどのように装着すればよいのでしょうか。まず袋を開ける時にコン

装着方法



- ①「精液だめ」（先端のふくらみ部分）を指の腹でつまんで、空気を入れないようにする。
 - ②ペニスの皮膚を根元側に寄せて、亀頭部側の皮膚が張るようにする。
 - ③コンドームを亀頭部に置き、張った皮膚に密着するように根元へ向けてかぶせていく。
 - ④かぶせた部分を亀頭部方向に寄せ、根元で余っていた皮膚が張るようにする。
 - ⑤根元側の張った皮膚に密着するよう、根元までかぶせていく。
- コンドームはペニスが勃起したらすぐに着け、射精したらペニスごとおさえてはずれないように膣（肛門）から抜き、精液が漏れないように結んで生ゴミとして捨てます。

ドームが痛まないよう、コンドームを端に寄せ、開けた部分は完全に切り離すようにします。そして、図のように、まず先端の精液だめの空気を抜いて、爪で傷つけないように指の腹で根元まで装着するようにしましょう。必ず挿入前から装着し、射精後すぐにペニスの根元を押さえながら引き抜いてください。自分（あるいは相手）にあつたサイズを選ぶことも大事です。小さすぎると根元まで装着できなかつたり、逆に大きすぎるとブカブカで中で外れてしまうこともあります。また、コンドームは必ず自分で買います。ホテルなどにはあらかじめ置いてあるものは古くて傷んでいる可能性があります。適切に保管・携帯することも大事です。タンスの奥に防虫剤と一緒に入っていたり、財布の中に小銭やクレジットカードと一緒に入れているとコンドームが痛んでしまうこともあります。持ち歩くときは財布とは別のケースに入れておく方が安全です。

神戸パニック

世界で初めてAIDS患者が報告されたのは、1981年アメリカ・カリフォルニア州のことです。若い人がかかるのは珍しい、カリニ肺炎という重い肺炎がゲイ（男性同性愛者）の間で見つかり、後にこれがAIDSの一症状であることが分かりました。当時は

まだ感染ルートがはっきり分かっておらず、ゲイや血友病患者にAIDS患者が多かったため、ほとんどの人にとっては関係のない病気という誤った認識が広がっていました。

日本では長い間HIV/AIDSは「対岸の火事」であると思われていましたが、1987年に日本人女性初のAIDS患者が神戸で報告されると、異性間のセックスでもHIVに感染することが一般に知られるようになり、世間はパニックに陥りました。個人情報という概念がまだ希薄だった当時、マスコミは当事者の実名や住所を掲載し、あたかもウイルスを撒き散らす犯罪者であるかのような、差別的でセンセーショナルな報道を行いました。さらに、当事者が売春をしていたというデマまで流れ、神戸市の保健所では感染を心配した人々から2週間のうちに8700件もの相談が寄せられたといわれています。ことさらパニックを煽る一連の報道のせいで、AIDS患者に対する差別や偏見が広まり、診療を拒否する医療機関が相次ぎました。「エイズになつたのは自業自得だ」「不道德な人がなる病気だ」「通常の医療行為でも感染するかもしれない」という風潮が強くと、感染経路や感染の予防に関する正確な知識が定着するまでには長い時間がかかりました。

日本のHIV/AIDS対策は、他の先進諸国と比べるといまだに遅れをとっている

言われています。欧米では、2011年に学術雑誌「サイエンス」のブレイクスルー・オブ・ザ・イヤー賞を受賞した研究（Cohen 2011）でその効果が発表されて以降、「暴露前予防投薬（Pre-Exposure Prophylaxis）」という新しい予防法が注目されています。名前が長いので、通称プレップ（Prep）と呼ばれているものです。この予防法は、HIVに感染していない人が抗HIV薬の一種であるツルバダ配合錠を1日1錠飲み続けることにより、万一体内にHIVが侵入したとしてもその増殖を防ぐ状態をあらかじめ作っておくというもので、その予防効果は約90%にも上ると言われています。2012年にアメリカ食品医薬品局（FDA）がプレップを承認したのを皮切りに、2015年には世界保健機構（WHO）がガイドラインを作成し、アメリカでは現在10万人近い利用者がいると言われています。その後もプレップを承認する国は増え続け、今では世界14の国と地域で承認されるに至っています。プレップの登場により、1980年代の「エイズ・パニック」を経験したことのない若い世代にとっては、HIV/AIDSが過去のものであると認識されている感さえありますが、プレップと近年の梅毒患者の増加の相関を懸念する声もあります。プレップはHIV感染を予防する効果しかないため、他の性病を予防するためにもコンド

ームを着用することが必要なのです。日本ではプレップ承認に向けた議論は今のところまだ起こっていません。しかし、タイ、台湾などアジアでもプレップを承認する国・地域が出てきているため、今後の日本の動向が注目されています。

薬害AIDS

日本国内のHIV/AIDSをめぐる経緯で忘れてはならないのが、薬害AIDSです。アメリカでは1982年に血液製剤を治療に使う血友病患者のAIDS症例が報告され始め、HIVが血液を介して感染する病気であるとの認識が強まっていました。血友病とは、生まれつき血液を固める物質（凝固因子（ぎょうこいんし））の働きが弱いために怪我などをした際に出血が止まりにくい病気で、男子約1万人に1人の割合で生まれると言われていています。昔は輸血しか治療方法がありませんでしたが、人の血液から凝固因子を取り出す技術が開発され、1978年には日本でも濃縮血液凝固因子製剤（のうしゅくけつえきぎょうこいんしせいざい）が使えるようになりました。この製剤は、多くの人々の血液から取った血しょうを1つのタンクにまとめて製造するため、その内の一人でもHIVに感染していると、血液製剤全体がウィルスに感染する危険性ははらんでいました。そのため、

アメリカではHIVに感染する危険性のある非加熱の血液製剤（非加熱製剤）の代わりに加熱処理をした製剤への使用へと移行していましたが、日本政府が加熱した製剤の使用を許可したのはアメリカに遅れること2年4ヶ月後のことでした。その結果として世界中の非加熱製剤が日本に流れ込むことになり、国内の血友病患者の約4割にあたる1800人ほどがHIVに感染し、現在までに少なくとも697人の尊い命が失われています。薬害AIDSは、国の無策と製薬会社の利益追従が生み出した甚大な医療被害なのです。

現在日本では、国が定める拠点病院を中心にしてHIV/AIDSの先進的な治療を受けることができ、身体障害者手帳の取得と自立支援医療制度の利用により、一定金額以上の治療費は国によって負担されます。これは、HIVに感染した血友病患者が国と製薬会社に対して起こした訴訟の中で、HIV医療のナショナルセンターの設置が強く要求されていたからです。当時の感染者・患者の中には、診療拒否などにより満足な医療が受けられず、命を落としてしまう人が多くいました。日本では薬害AIDSという悲劇への反省から、HIV/AIDSに対する医療と社会福祉が前進したのだということをお忘れではありません。

検査を受けよう

HIVの厄介なところは、長い間自覚症状がないことです。そのため、HIVに感染していることを知らずにセックスしている人もいます。HIVの新規感染者数が減らないのは、「自分だけは大丈夫」という根拠のない自信から無防備なセックスをしている人がいるからです。

残念ながら、日本ではHIV抗体検査を受けるといふ文化があまり根付いていません。多くの人はHIVに対して無関心で、いざ子どもをつくるという段階になっても検査を受けません。「自分だけは大丈夫」という意識に加えて「パートナーもきっと大丈夫だろう」と過信したり、「検査を受けてと言うと相手を疑っているようで失礼だから」と思っている人もいます。しかし、そのパートナーに元パートナーがいるかもしれないと想像してみてください。そして、その元パートナーにも元パートナーがいるかもしれない人もセックスをしたことがないという人ならともかく、HIVは誰でも感染し得るウィルスで、感染の可能性はどこにでもあるのです。

検査の結果もしHIV陽性と分かっただけから検査を受けたくないと思っただけから怖いという人はいらぬでしょう。HIVは早期に発見し早期に

治療を開始することができれば、ウイルスの増殖を容易に抑えることができ、今までと変わらない生活を送ることができます。また、厚生労働省が「職場におけるエイズ問題に関するガイドライン」を策定しており、感染がわかったら職場で不当に解雇されるのではないかとといった心配をする必要もありません。昔の怖い「エイズ」のイメージに引きずられずに、現代の医療を信じましょう。

HIVの感染初期には、血液検査では陰性となり、感染していることがわからない期間（ウィンドウ・ピリオド）があります。そのため、感染のリスクがある行為から3ヶ月以上経ってからの検査が推奨されています。検査は医療機関以外にも、全国の保健所において無料かつ匿名で行われています。また、「エイズ予防財団」など多くの電話相談窓口があるので、一人で悩み続けずに、まずは気軽に相談してみましよう。

最後に、これまで感染の予防が大事だということをお伝えしてきましたが、私たちの身近にもHIV/AIDSに感染している人々がいて日常生活を送っておられることを知ってほしいと思います。私たちは、病気だからという理由で差別したり偏見を持つてしまいがちです。病気であるうがなかるうが、ひとりの人として互いに認めあうことこそが大切なのではないのでしょうか。

HIV/AIDSについて学べる映画

- 『ダラス・バイヤーズ・クラブ』(2013)
- 『ノーマル・ハート』(2014)
- 『フィラデルフィア』(1993)
- 『マイ・フレンド・フォーエバー』(1995)
- 『ロングタイム・コンパニオン』(1990)

参考文献(日本語)

- 岩室紳也 1996 『エイズいま、何を、どう伝えるか』大修館書店。
- 産経ニュース2017年1月17日「神戸エイズパニック三〇年」。
- 松本俊彦、岩室紳也、古川潤哉 2016 『中高生からのライフ&セックスサバイバルガイド』日本評論社。
- 屋鋪恭一、鮎川葉子 2005 『知っていますか？ AIDSと人権 一問一答第3版』解放出版社。

参考文献(英語)

- Cohen, J. 2011. 'Breakthrough of the year: HIV treatment as Prevention'. *Science* 334(6063): 1628.
- Cohen, M.S. et al. 2011. 'Prevention of HIV-1 infection with early antiretroviral therapy'. *The New England Journal of Medicine* 365(5): 493-505.
- McCormack S, Dunn DT, Desai M, et al. 2016. 'Pre-exposure prophylaxis to prevent

the acquisition of HIV-1 infection (PROUD): effectiveness results from the pilot phase of a pragmatic open-label randomised trial'. *The Lancet* 387(1001 3): 53-60.

※表紙裏: 『HIV/AIDSへの理解と支援のシンボルであるレッドリボン』参照

人権を大切にすることは 心を育てること

短期大学部教授 加藤博史

みんなでのいのちのふるさとに帰りましょう。
ありがとう。わたしたちを包むあたたかな
不思議なひかり

正信偈の始め（帰命無量寿如来、南無不可思議光）を口語訳すると、こうなるのでしょうか。筆者は、幼児期に仏壇の前に寝かされ、感謝の念仏を四六時中称えている祖母の毎朝の正信偈のお勤めの途中で、目が覚めて育ちました。

なかでも正信偈の「不断煩惱得涅槃」と「往還回向由他力」が好きです。親鸞は「迷い」を否定しませんでした。むしろ、「迷い」をありのままに受けとめることから出発し、そこに立ち戻りました。親鸞は、自身が愛欲と名利を自己中心的にむさぼり、人と物と他のいのちを支配しようとし、うまくいかないことと怒り愚痴り誇り、嘘をつき、傲慢に自分を飾り立てることに、恥ずかしくて心が痛むと述べています。

恥ずかしさと心の痛みの深さだけ、深く親

鸞は「たすけ」を求めたのでしょうか。親鸞を救い助けたのは、不思議なひかり（アミダブツ、永遠のいのち）の力でした。けっして親鸞の「さとり」の力ではありません。人間が「迷い」から「さとり」に移るものではありません。人間が自己中心性を克服するではありません。「さとる」のはアミダブツの前身の法蔵菩薩であり、人間は自力を捨てて自己中心性を抱えたままで、アミダブツの「誓願」に任せ委ねるしかありません。そんな、赤ちゃんととつての（母性）のようなひかりに出あえたことがラッキーなのでしょう。そのラッキーは、気がつけば既に向こうから戴いていたものでした。そして親鸞は、往生したらアミダブツの力でこの世に戻って世のため人のために尽くす（還相回向）ことを念じて生きていくよう勧めています。

親鸞はアミダブツのことを好んで不思議なひかり、と呼んでいます。親鸞と同時代人の道元は、これを「万法」と呼んだのではないかと思えます。つまり、マクロ・コスモスの

意味です。「万法すすみて自己を修証するはさとりなり、迷を大悟するは諸仏なり。」（正法眼蔵）。自分の浅知恵や修行でさとることはできない、と道元も述べています。道元は坐禅という方法を用いて、自己というミクロ・コスモスと、世界というマクロ・コスモスを感得することを勧めました。親鸞は法然に倣い、子どもでも老人でも障がいが重くても、ひと言口に称えればアミダブツの光に包まれる「念仏」という方法を勧めました。

米国に「ユー・アンリミテッド」という言葉があり本学でも使っています。個人の潜在可能性実現と頑張りを鼓舞するものです。ただし、親鸞の教えに従えば、あなたの愛欲と名利の欲が無限であり、同時に、あなたの中にアミダブツの無限のひかりがはたらいており、包んでくれている、と解すべきでしょう。You are embraced with unlimited Grace,ですね。

我欲を煽り立てる文化の蔓延と我欲相互のぶつかり合いによって、今日、世界的にも家庭的にも暴力と支配力が横行しています。その根柢にあるのは、自己自身に対する支配欲の異常な高まりだと思えます。精神医学界の重鎮である神田橋條治は、家庭内暴力の基本的雰囲気は「悲しみ」だとしています。この「悲しみ」が自覚されると暴力を振るわななく済むということなのです。神田橋は、イメ

ージに行動を添える方法を用いて、行動にイメージが備わるようになり、行動と共に内省が働くようになり、暴力という形で行動が暴走しなくなる、として家庭内暴力の治療方法を提示しています（「神田橋條治精神科講義」創元社）。

悲しみは、自己を認め受け入れてもらえないことからくる悲しみなのでしょうが、真に自己を受け入れるものは自己しかありません。その自己は、強くて立派な自己ではなく、弱く卑しく傲慢で恥ずかしい自己をも含んだ自己に他なりません。

心理学者の樋口和彦は、『患者が治るといふのは、患者の無意識の中に働いている《医師》の元型がその中でどのようなよい働きをするのかにかかっている。』（「生と死の教育」創元社）と述べています。その発見と発揮を手伝ってくれるのが、『自分の中に患者を引き受けた』人だと樋口は語ります。そんな人はどこにいますのでしょ。

それは、苦しみや悲しみと対話してきた人です。親しい人の死など人生の様々な蹉跌と喪失を体験してきた老いゆく人、病床にある人、死に臨む人たちです。この人たちは、生きる意味を問い続け、永遠のいのち、コスモスとしての世界と自己をイメージするキャパシティを広げてきた人たちです。

こういう人たちが、子育て、親育てに関与

する仕組みを創っていかねば、子どもの心は貧しくなる一方です。今日の子どもたちに最も失われているのは、意味的なイメージの世界ですが、それは、童話やアニメの提供だけで豊かになるものではありません。二人称の世界で、子どもと高齢者の共感的出会いを創りだすことです。高齢者は、文字・数字・記号などシグナルの世界に生きてきた人よりも、農林漁業や職人などシンドルの世界に生きてきた人が望ましいでしょう。そして、人生の哀歎の経験豊かな人が良いでしょう。理屈をこねて生きている筆者のような人間は、今からでもせいぜい家事を手伝って生活人間にならなければ役に立ちません。

縦軸に意味的感性的志向性を設定し、上に行けばより意味性が高くなるとします。横軸に業績的機能的志向性を設定し、右に行けばより機能的が高くなるとします。そうするとこの座標軸上で、第二象限、つまり意味的には高いが機能的には低い世界が産業革命以前の世界となり、第四象限、つまり機能的には高いが意味的には低い世界が現代社会となります。私たちが目指す社会は、第一象限、つまり高い意味性と高い機能的性という広い振幅を持った社会といえます。それが本当の意味で、暴力と支配力を克服し、人間を大切に育み遇する社会といえるのではないのでしょうか。

新潟の出雲崎の名主の家に生まれた良寛

は、最近の研究で、母の連れ子だったのではないかとされています。偏屈でトラブルメーカーの父のもとを十八歳で出奔して、すぐ出家したのではなく、数年放浪していたといわれています。岡山で修行して禅僧になった後も、父親が京都の桂川で入水自殺し、数年後に東福寺で修行していた弟も自死します。父の後を継いだすぐ下の弟は財産没収の処分を受け、その子は酒色にふける有様でした。

その良寛の歌に、『あわ雪の中に立ちたる三千大千世界みちよ またその中にあわ雪ぞ降る』があります。淡雪の降りしきる中に大宇宙が観え、その宇宙のなかにまた淡雪が降りくるのが観えるというのです。はかなくて、いとしくて、かなしい世界と永遠のいのちの世界が、相入・相即の関係にあることを謳ったものでしょう。イメージの豊かな世界が私たちにも伝わってきます。最晩年、山中の庵で、老いと腸の病で糞尿だらけになりながら、真心尼の訪れを恋慕う良寛は、「不断煩惱得涅槃」そのものです。そして、良寛は子どもたちとの遊びの名人でもありました。

人権は、法的・物理的必要条件が満たされねば保障されません。しかし、本来に人を大切に十分条件とは、イメージ豊かな心を育てることです。龍谷大学は、悲しみに寄り添える心を育てる日本一の大学であって欲しいと願います。

龍谷ヒューマンライブラリー

経済学部3年 和田萌実

「人を貸し出す図書館」との出会い

ヒューマンライブラリーとは、人が「本」となって「読者」に語り掛ける、対話型イベントのことです。社会のなかで誤解や偏見を受けやすい人々が「本」になり、自らの境遇や体験を「読者」へ語る取り組みとして、2000年にデンマークで発祥しました。現在では日本を含む70か国以上で開催されています。日本の大学では、明治大学や駒澤大学、麗澤大学などで実施され、また近年は弘前大学や東京学芸大学でも活動が始まり、ヒューマンライブラリーは多様な広がりを見せています。私がヒューマンライブラリーを知ったのは、「学校教育社会学」という授業がきっかけです。授業の映像資料で、京都大学でヒューマンライブラリーが行われた様子を観ました。そこには、視覚障がいの人やトランスジェンダーの人など社会的にマイノリティとさ

れる人たちが差別をなくすことを目的として、自らが「本」となり自分の「生きかた」を語る姿が映っていたのです。

その姿を見て私はなぜか、私自身の人生や今まで思い描いていたイメージが、ヒューマンライブラリーを通じて一つに繋がるような、不思議な感覚を覚えました。幼いころから人の人生に関心があったこと、思春期を迎えるころには偉人の伝記ばかり読んでいたこと。そして今、私が学ぶこの龍谷大学で、なにか学生たちを巻き込むようなイベントをやってみたいと思ったこと。自分からなにかを発信してみたいけれど、具体的に形にできず、それを諦めてしまっていたこと……溢れ出る気持ちだが、90分の授業中に交錯しました。「龍谷大学で、ヒューマンライブラリーをしてみたい！」
今まで抱き続けてきた想いが、重なった瞬間でした。

龍大だからこそ

私は、龍谷大学のことを「これほどヒューマンライブラリーに適した大学はない」と考えています。龍大の理念である「社会の規範からはみ出ざるを得ない人々も分け隔てなく救われる」という浄土真宗の精神に、「社会的にマイノリティとされる人々が、自分を素直に語れる場」であるヒューマンライブラリーの理念が重なると感じたからです。また、そういった精神の下で学ぶ「龍大生」なら、きつと穏やかに受け入れてくれるだろう、とも思いました。

しかし、一口に「龍大生」と言っても、それぞれが持つ経歴や考えは、まったく異なります。迷い、悩み、これまでの自分を活かしながら、これからの自分の「生きかた」をつくるため、私だけでなく龍大生一人ひとりが、もがきつつも成長し、日々を過ごしています。大学は、様々な文化や思いが交わりながら、互いに学びを深めあう場です。そして、大学生としての時期は、人生において、進路選択や自己分析などを行う重要な時間でもありません。そのような特殊な空間で、いろいろな人の体験談や人生観を聴いてみたい、語ってみたい。せっかくなら、マイノリティであるなをしを問わず龍大生一人ひとりの「本」を読みたい。龍大だからこそ、多様な「生きか

た」を共有することができるとはならないかと考えたのです。

RHL Project 始動。

2017年8月、私は芽生えた気持ちを友人に打ち明けました。すぐに「おもしろい、やってみよう！」と賛同してくれて、私が思っていた以上に話はトントン拍子に進み、「龍谷ヒューマンライブラリー」を開催するためのプロジェクト「RHL (Ryukoku Human Library) Project」が立ち上がりました。

プロジェクトのメンバーは徐々に増え、2018年現在、深草・大宮学舎に在籍する学部生6名が運営しています。しかし、学友会所属のクラブや一般同好会として認められているわけではなく、サークルとして今後存続

Ryukoku Human Library 龍谷大生一人一人が、和心な。

不登校 フラフティア 宗教
音楽 コスプレ 動物 コップレックス

日時 12/18(月) 17:00 開場 17:30 開演 (各回 30 分交代制)

場所 深草キャンパス 和顔館 2F 受付: 205 教室

RHL Project 連絡先: not.because.h@gmail.com
責任者: 経済学部 5 年生 めぐ (和川萌実) 文学部 5 年生 ぜん (坂高亮) 後援: 宗教部

するかどうかも決めていません。ただ、「2017年内には開催したい」という気持ちから、見切り発車でしたが取り組みを始めました。

まずはメンバー間でイメージを共有し、開催規模や会場の設定、文化祭やテスト期間と重ならないような日時を調整して決め、大まかな企画概要が出来上がりました。

続いて、一番重要な「本」の選定に入りました。第1回ということもあり、個人的なエピソードを集めようと、私を含め運営メンバーから2人、そして私的な付き合いのある学部の先輩と、大学院生を合わせ、合計4冊の「本」で挑むことにしました。内容に関するキーワードは「宗教」「不登校」「コンプレックス」「セクシュアリティ」といったマイノリティ要素を感じられるものから、「音楽」「動物」「コスプレ」「ポランティア」といった、一般的な趣味や活動を表すものまで、多岐にわたります。これは本来のヒューマンライブラリーの趣旨とは少し異なりますが、「龍大で行うなら」と考えた結果、すべての人が「本」になれることを前提にしたいと思ったからです。

次に、「読者」にどのような形で「本」を選んでもらうか、どういった環境で読むことができれば

深く心に残るかということを念頭に置き、話し合いを重ねました。試行錯誤の上、小さなゼミ教室を「本」の数だけ用意し、教室の外に「本」自身が定めたタイトルを示すことで、「読者」が気になった「本」のもとに集うといった、イベントとしては特殊な形式をとることにしました。加えて、全体のアンケート用紙とは別に、小さな無地のしおりを用意し、読んだ「本」に直接メッセージを送ることのできる「しおりを挟む」アイデアも生まれ、ヒューマンライブラリーの中でもオリジナリティ溢れる企画に仕上がりました。

また、運営メンバーの1人がデザインに長けていたこともあって、広報用のフライヤーはとても見栄えが良く、企画概要や「本」の内容だけでなく、プロジェクトの想いがしっかりと伝わる、完成度の高いものとなりました。

第1回「龍谷ヒューマンライブラリー」開催

周りの人の人望と厚意に頼りつつ、友人の助けをたくさん借りながらも、開催の日はずつ近づいてきました。しかし、その道中は、自分でなにかを運営する経験をしたことがない私にとっては、迷いや戸惑いの連続でした。「私なんかこんな大がかりなイベントをやってもいいのかな」「運営も『本』も知り合い

ばかりで、内輪だらけの状態で『読者』は集まるだろうか……正直に言えば、当日を迎えるまで、不安で胸がいっぱいでした。

そして、2017年12月18日。和顔館2階の教室をいくつか借り切り、第1回「龍谷ヒューマンライブラリー」を開催しました。会場準備や受付、案内などの作業はすべて運営メンバーだけで行い、ひっそりとした始まりでした。初めの「読者」が受付に来るまで、



運営メンバーの誰もがソワソワしていたのを覚えています。

第1回の「本」は、『たった一人のジブン』『残りの人生かけて救いたい命』『月が二つある世界』『Cosplay & Complex』の4冊。それぞれタイトルを見ただけで、主催側の私までワクワクしてしまいうくらい、とても個性豊かです。そんな魅力的な「本」たちに魅かれてか、「読者」は15名ほど集まりました。来てくださった方一人ひとりが真剣に「本」を読み、その物語をしっかりと受け止めてくれたように思います。アンケートや「しおり」の評判も良く、「画期的なイベントである」「ぜひ次回もやってほしい」といった声が多く上がりました。結果として、大盛況とはいかずとも、大成功だったと感じています。

思えば、突拍子もない考えから生まれた龍谷ヒューマンライブラリー企画。団体として大学に登録しているわけではないし、プロジェクトとして応募したわけでもありませんでしたが、宗教部や障がい学生支援室をはじめ、多くの方にご支援いただいて、無事に開催することができました。たくさんのご縁に、感謝で胸がいっぱいです。

龍谷ヒューマンライブラリーが描く夢

私たちがヒューマンライブラリーを企画する上で、詳細を聞いて「面白い!」と感じて

くれた人は数多くいます。それはきっと「自分のことも、他人のことも理解したい」「自分や他人に対する偏見を壊したい」といった思いが、みんなそれぞれ、心のどこかにあるからではないかと思えます。

人は、ある一つの側面だけを見て、その人のすべてだと思いがちです。しかし、なにも知らないままに誰かを否定すれば、それは「意見」ではなく「偏見」になってしまいます。そういった自分のなかの「偏見」を、「読む(聴く)」ことで壊す。また、自分のなかの「意見」を、「書く(語る)」ことで表現する。ヒューマンライブラリーは、そういった機会を与えてくれる場です。

今後、もっとたくさんの「本」を揃えて、たくさん「読者」を、さらには龍谷大学全体を巻き込めるようなイベントへと成長させていければ嬉しいです。龍谷チャレンジや宗教部の懸賞企画(仏教活動奨学生)などの学生活動支援制度を活用し、より一層企画の幅を拡げていきたいと思えます。

ヒューマンライブラリーを通して、多種多様な「生きかた」を共有し、それぞれの「生きかた」をより良くしていくこと。そして、私を含む龍大生一人ひとりが、自分を「書き」、人を「読む」ようになれることが、ヒューマンライブラリーの描く夢であり、私たちの理想です。

「性のあり方の多様性に関する基本指針」の策定について

龍谷大学は、「人権に関する基本方針」を策定し、本学に関わるすべての人が差別やハラスメントなどの人権侵害を受けることなく学び、働き、関わり合えるよう保障することを宣言しています。しかし、昨年度に実施した学内のアンケートにおいて、性的指向や性自認などに関する嘲笑的・差別的言動などが日常的にあり、それによって傷つき生きづらさを感じている人がいることが明らかとなりました。なかでも誤った理解や無自覚にもとづく教職員の言動によって、深く傷ついている人がいるということに気づいてこなかったことを重く受け止め、しっかりと見つめなおさなければなりません。

このたび、龍谷大学は、性的指向や性自認などを理由とした差別や偏見を克服し、誰もが自分らしく安心して過ごすことができるキャンパスを実現するために、本学構成員一人ひとりがとるべき指針として、「性のあり方の多様性に関する基本指針」を策定しました。

基本指針は、あくまで取り組みの第一歩であって、これからの歩みこそが大切です。私たちは、不断の学びと継続した啓発を通し、多様性を認めあう文化の創造に努めてまいります。みなさまのご理解とご協力を切にお願いいたします。

2017（平成29）年12月8日

龍谷大学長 入澤 崇

性のあり方の多様性に関する基本指針

性的指向^{*1}や性自認^{*2}など、性のあり方は多様であり、これらに関する差別や偏見を解消し誰もが自分らしく安心して過ごすことができる大学や社会を目指すことは、すべての本学構成員が取り組むべき課題です。

龍谷大学は、「人権に関する基本方針」のもと、本学構成員の一人ひとりが、性的指向および性自認などに関する悩みや生きづらさを抱える人がいることを常に理解し、合理的な配慮を可能な限り提供するため、次のとおり基本指針を策定します。

1. 教育、学修、研究、就業等の環境において、性のあり方に関する偏見や差別が生じることがないよう不断の学習と啓発に努めます。
2. 具体的な対応にあたっては、悩みや生きづらさを抱える本人の意思を尊重して合意形成を目指します。
3. トイレや更衣室等の利用にあたり、戸籍上の性別等にかかわらず性自認にしたがって自らが選択できるよう、環境整備と理解の醸成を図ります。
4. 性のあり方に関する個人情報保護を徹底します。

※1性的指向 (Sexual Orientation) 異性や同性あるいは両性や全性への恋愛や性愛に関する概念です。

※2性自認 (Gender Identity) 自分の性をどのように認識しているのか、どのようなアイデンティティ (自己同一性) を自分の感覚として持っているかを示す概念です。服装や話法、振る舞いといった性の表現などもこれに含まれます。

龍谷大学

人権に関する基本方針

(2016年6月23日策定)

人権に関する基本方針の策定にあたって

建学の精神と人権

龍谷大学は、親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間の育成を願い、教育と研究を行っております。それは、心身を苦しめる迷いから逃れられず、自分のみを善しとするものの方から離れ、阿弥陀仏の願いに生かされて自と他が互いに深い縁で結ばれていることに気づかされる生き方として、建学の精神に謳われています。

本学では、その具現化の方策の一環として、1961年に人権に関する授業科目を開講して以来、人権教育、人権研究、人権啓発などを通じて人権尊重の文化の醸成を推進してきました。しかし、一般社会では既知の人権問題に加え、これまで認識されてこなかったさまざまな人権問題が表面化しています。私たちは、これらの人権問題に迅速に

対応し、建学の精神にもとづき、他者への同朋としての温かい眼差しと、生かされ恵まれている喜びを持つことのできる人間教育に全学をあげて取り組まなければなりません。

身近な人権課題に向きあう視点

本学は、2万人を超える学生や教職員のほか、さまざまな関係者によって構成されています。言い換えれば、人種、民族、国籍、ルーツ、宗教、信条、社会的立場、年齢、性別、セクシュアリティ、障がいの有無など、多様な人が、自由に学び、働き、行動し、交流するコミュニケーションであるといえます。一人ひとりのつながりによって成り立っているコミュニケーションにおいて、差別し排除しようとすることは、人であることを否定することです。

残念ながら、身近な社会においてさまざまな人権侵害があとを絶ちません。例を挙げると、学校でのいじめ、インターネットでの誹謗中傷、職場でのハラスメント、家庭での暴力(DV)、子ども虐待、さらには街頭でのヘイトスピーチなどがあります。さまざまな人権侵害を克服するためには、加害者だけの問題として済ませるのではなく、加害者を取り巻く社会構造や背景、つまり社会が抱える問題認識とそれらを解決するための取り組みが欠かせません。

人権の問題や差別は、意図的な行為だけでなく、無意識のうちに自己中心の見方によって引き起こされることにも注意を向ける必要があります。たとえば、人の個性は一人ひとり違って、性のあり方も多様です。その理解が不十分で、画一的な観念や固定的な性別役割に囚われていると、知らず知らずのうちに相手を傷つけることがあります。無知や無関心、そして多数者への迎合による「無意識の差別」についても、その自覚と克服の努力が必要でしょう。

人権を考える理念

1948年の国連総会で、すべての人間の自由と尊厳と権利の平等を謳った「世界人権宣言」が採択されました。1966年には、加盟国を法的に拘束する「国際人権規約」が採択され（日本は1979年に批准）、その後も、「人種差別撤廃条約」（1965年）や「女性差別撤廃条約」（1979年）、「子どもの権利条約」（1989年）、「障害者権利条約」（2006年）など個別的な人権条約が採択されています。

また、「日本国憲法」は、「すべて国民は個人として尊重される」（13条）と定め、個人の生は国家や他者の道具ではなく、自分らしく生きることで自他に価値があることを認めています。さらに、アジア太平洋戦争の加害と被害の経験から、平和的生存権を掲げ、個人の尊厳を平和と一体のものとしています。

人権の理念は、すべての人が自分の生き方を主体的に描き、自己成長をめざして協働し、社会参画するパワーを輝かせようとするものです。また、だれも排除しない、個人の尊厳を大切にする社会、多様な価値観を尊重し、固有性を活かしかう社会を目指すことにあります。

見えにくい差別に対しても鋭敏な感覚を醸成し、自他を平等に見ようとする眼差しを涵養することが、私たちの責務です。一人ひとりの力は弱くても、より良く変えていこうと努める姿勢を示し続けることこそ、人権が尊重される社会に向けた最も重要な実現過程だといえます。

本学は、すべての人が平和に共存し、連帯する社会を目指して、ここに「人権に関する基本方針」を策定します。

人権に関する基本方針

龍谷大学は、建学の精神である浄土真宗の精神を具現化する取り組みのもと、平和を希求し、基本的人権と生命の尊厳を守り、人種、民族、国籍、ルーツ、宗教、信条、社会的立場、年齢、性別、セクシュアリティ、障がいの有無などにかかわらず、本学に関わるすべての人が差別やハラスメントなどの人権侵害を受けることなく学び、働き、関わり合えることを保障します。

龍谷大学は、基本的人権を尊重した環境の整備と、社会的に不利な立場にある人への支援・連帯を推進するため、人権理論の研究、社会的な変化や新たな人権問題に関し、情報収集に努め、本学における人権保障にかかる諸施策の検証と改善、教職員への研修、学生への教育・啓発を継続的に実施します。また、人権保障のための体制の整備に努め、取り組みを公表します。

龍谷大学のすべての構成員は、人権侵害が意図的な行為だけでなく無知や無関心、想像力の欠如によって生じることを常に意識するよう努めます。そして、自ら差別に加担し他者を傷つけている可能性があることの自覚をもち、人権問題に真摯に取り組む姿勢を持つとともに、一人ひとりの多様性と価値を尊重し、偏見や固定観念、差別意識の克服に向けて、主体的に取り組みます。

龍谷大学および龍谷大学のすべての構成員は、教育、研究など、あらゆる機会において人権保障にかかる諸課題を明らかにし、諸活動や成果の発信を通して、人権を尊重する文化と差別のない社会づくりに貢献します。

やたら強大さを演出し、地位と名誉を見せびらかす人がいます。こんな権力、支配力コンプレックスに囚われた人たちが、近年、世界や日本の政治指導者に就くようになりました。それは、指導者を支持する国民にも、幼稚な自己愛と偏狭なエスノセントリズム（自民族優越の妄想体系）が蔓延しているからではないでしょうか。

教養や知性が身につくと、自己のうちにあるそれも含めて、他者を服従させようとする権力主義や、他者を蔑もうとする権威主義を批判するパワーが発揮されることをいいます。そのパワーは、世界と自己に開かれた繊細な心であり、他者の悲しみや苦しみを受けとめ思いやる心です。

今号の特集では、多文化共生キャンパスをテーマにとりあげました。人類は同じ祖先を持つホモ・サピエンスであり、民族とは歴史的に形成された言語や文化を共有する集団のことをいいます。

文化人類学者のレヴィ・ストロースは、アマゾン河の上流、南米大陸の中央に住むナンビクワラ族などの調査を行い、「悲しき熱帯」（1954）を書き上げました。その中で彼は、現代の文明社会の異常性について述べています。

『西洋のこの偉大な文明は、私たちが享受しているか？ はずのすばらしいものをつくりだしたはしたが、しかしその陰の部分を生むことなしにはそれに成功しなかった。（中略）原子炉——のばあいのように、こんにち地上を汚しているおびただしい量にのぼる、呪われた副産物の排泄を必要とするものなのである』（川田順造訳、『世界の名著59』p.377）。そして、彼が育ったパリの文明と、裸同然で狩猟暮らしのナンビクワラ族の社会との間に優劣がないことを論じました。前者を蒸気機関のような熱力学的機械社会、

■編集を終えて

影と対話しオリジナリティを活かす知性を

人権問題委員会委員長 加藤 博 史

後者を時計のような工学的機械社会とも呼んでいます。そして私たちの文明社会の熱源は、「差別と虚栄心」だといふのです。だからこそ、強欲の冷却装置が必要なのです。今年1月22日、文化人類学者を父に持つルークグウィンが亡くなりました。彼女の代表作に『ゲド戦記』があります。傲慢な魔法使い見習いのゲドは、妬みや競争心から禁じ手の魔法で「影」を呼び出してしまいます。すると影はゲドを襲いむさぼり、そして操ろうとします。ゲドが逃げると影は大きくなる——。まるで現代文明と現代人を象徴しているかのようなようです。

老師がゲドに、影から逃げず、影へと「向きなおるのじゃ」と説きます。影は自分自身の一部であり、「影は光への旅の案内人」なのです。こうしてゲドは成長していきます。私たちの文明は光のみを追い求めるあまり、影を排除していません。かつて日本の文化は、老、病、死という苦悩と対話し、その深い意味を汲み取りながら豊かな文化を培ってきました。それは大切な伝統です。

支配者は、他者の光と影が織り成すオリジナリティを奪うと同時に、自己のオリジナリティを放棄します。

オリジナリな人間に成長するには、自分の五感で世界を体験し、影とも対話すること、そして、苦悩を乗り越える旅をしてきたオリジナリな人と深く出会うことが肝要です。オリジナリな人たちと風土との交互作用の蓄積が文化を産みだします。今、多文化共生を語る前に、文化のオリジナリティの衰退が課題なのかもしれません。

世界中の文化がつかっている認識を人類の絆とし、文化のオリジナリティを活かすことでその発展につなげていきたいものです。それを支える力こそ知性と教養なのです。



「白色白光」

「白色白光」という言葉は『仏説阿弥
陀經』に「池中蓮華 大如車輪 青色
青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光
微妙香潔」とあり、本紙の表題にふ
さわしいということで命名しました。
これを口語訳しますと、次のようにな
ります。

池の中に咲く蓮の花は、車輪の如く
大きい。例えば青い色の花は、青く光
り輝いており、黄色い花は黄色く光つ
ている。赤い色の花は、赤く輝いて咲き
匂い、白い色の花は、真っ白に輝いて咲
いている。その各々の花は、微妙であり、
妙なる色合いであり、その香りたるや、
芳しく清らかである。

世の中には、青い色の花として輝く
人もあるでしょうし、あるいは白い色
で輝く人もあるでしょう。このように、
私たち一人一人は、それぞれの母の胎
内から生まれ、尊い生命を恵まれた、
かけがえない存在なのです。

「白色白光」には、お互いがお互いを
尊重しあいながら、自分だけにしか出
せない美しい輝きでもって咲き匂って
欲しいという願いが込められています。

「白色白光」第20号

2018年3月1日発行

編集 龍谷大学人権学習誌編集委員会

発行 龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

☎075(642)1111(代)



土

こつつん こつつん、
打たれる土は、
よい畑になつて、
よい麦生むよ。

朝から晩まで、
踏まれる土は、
よい路になつて、
車とおすよ。

打たれぬ土は、
踏まれぬ土は、
要らない土か。

いえいえ、それは、
名のない草の、
お宿をするよ。

金子みすゞ

『金子みすゞ童謡詩集』3
JURIA 出版局 '04年 74頁